

ふくしま共創のまちづくり計画

信夫地区（素案）

作成：信夫地区未来会議
事務局：信夫支所内
電話：(024) 545-2170

地域ビジョン

「歴史と自然が豊かなまち 信夫の里」

「し」しあわせいっぱい、共助の力で
「の」のびのび、生き生き、笑顔で暮らせる
「ぶ」文化と歴史、自然あふれるまちづくり



【大森城山と吾妻の雪うさぎ】

地域の個性

【位置】福島市中心市街地の南側に接する信夫地区には、大森地区、鳥川地区、平田地区の3地区があります。

【自然環境】地区の北東部は平坦地であり、南西部は緩やかな山林となっており、地区内には、大森川・濁川・平田川などの一級河川が流れています。四季を彩る大森城山・高倉山等があり、また、里山には花木群があり、平坦地には田園地帯が広がります。さらにホタルの生息する清流もあるなど、豊かな自然環境に恵まれています。

【交通】JR東北本線南福島駅があり多くの通勤通学に利用されています。地区内には広域幹線道路が整備され、東西を貫く国道115号は福島西ICによって東北自動車道に接続しており、また福島市の新しい都市軸となる国道13号福島西道路南伸及びその周辺地域開発により発展が期待されている地区です。さらに県道南福島停車場線や県道水原・福島線など地域間のアクセスが確保された地区です。

【歴史・名所】福島市の原点である本町、中町などの町名があり、伊達氏ゆかりの大森城址や陽林寺、陽泉寺、円通寺、好国寺、観音寺、日吉神社などの神社仏閣や西久保遺跡、稻荷塚古墳、八幡塚古墳、石那坂古戦場、旧米沢街道などの歴史資源が数多くあります。

【観光】「大森城山公園さくらまつり」「ひらた花咲まつり」「スイーツ de 花ウォーク」が開催される桜の開花時期、及び陽林寺の「紫陽花まつり」には、市内外から多くの観光客が訪れます。



信夫地区の基礎データ (R7.9末現在)

項目	信夫地区	市全体
面積	41.21km ²	767.72km ²
人口 (人)	22,937 (市全体の8.8%)	262,122
15歳未満	2,845 12.4%	29,778 11.4%
15~64歳	12,972 56.6%	148,788 56.8%
65歳以上	7,120 31.0%	83,556 31.9%
世帯数	10,170世帯	125,001世帯

地域の取り組みの実績

- 地域資源を生かした活動
 - 「大森城山公園さくらまつり」「ひらた花咲まつり」「スイーツ de 花ウォーク」の開催や高倉山に花を咲かせ隊などによる花の名所づくりを実施し、豊かな自然を生かしたまちづくりに取り組んでいます。
 - 史跡等の案内板を設置し紹介を行い、歴史資源を生かしたまちづくりに取り組んでいます。
- 花いっぱい運動
 - 各種団体等を中心に花の植栽を実施し、地域の景観美化と環境保全に取り組んでいます。
- 信夫地域防災訓練等の開催
 - 各地区持ち回りで実行委員会を組織し地域防災訓練を実施。
 - また、地域で自主防災組織による定期訓練を実施し、防災減災の意識の高揚に取り組んでいます。
- 見守り活動
 - 子どもたちを交通事故や犯罪から守るため、登下校時に見守り活動を実施しています。また、交通死亡事故ゼロ日の連続記録を更新しています。
- 環境美化活動
 - ポイ捨てのない美しいまちづくり推進モデル地区では、環境美化活動に取り組んでいます。また、不法投棄防止等の看板を設置するなど、環境保全に取り組んでいます。
- スポーツ振興
 - 信夫地区大運動会を実施し、住民の交流と健康づくりに取り組んでいます。また、市民スポーツ大会地区対抗総合優勝の連続記録を更新しています。



【見守り活動】

地域の強みとなる資源

- 国道13号福島西道路 (II期) 改築事業
 - 国道4号の交通の分散を図る国道13号福島西道路南伸は、福島市南西部地区発展の軸になることが見込まれます。また、整備区間で唯一の平面交差周辺部の利活用は、地域振興の起爆剤として期待されています。
- 豊かな自然環境
 - 大森城山、高倉山、新田茂田川などの豊かな自然や里山の花木群、田園風景が広がります。
- 豊富な歴史資源
 - 大森城址や陽林寺、陽泉寺、円通寺、好国寺、観音寺、日吉神社などの神社仏閣や西久保遺跡、稻荷塚古墳、八幡塚古墳、石那坂古戦場、旧米沢街道などの歴史資源が数多くあります。
- パークゴルフ場・クレー射撃場
 - 地区内外から多くの愛好者が訪れ利用しています。

地域課題

- 世代間等交流事業や人材の育成による地域コミュニティの活性化
- 地域防災力を高め災害に強い地域づくり
- 防犯対策や交通安全活動による安全・安心に暮らせる地域づくり
- 豊かな自然環境や歴史資源の保護や継承と利活用及び生活環境の保全
- 地域の支え合い活動や健康づくり運動の推進
- 遊休農地等の利活用と農業後継者の育成
- 国道13号福島西道路南伸に伴う地域振興策の推進

重点的な取り組み

I 地域コミュニティ

- 【方針1】世代間等交流や若者の地域行事への参加を促進し、地域のつながりを強化します。
- (拡充) 世代間交流や地域行事に子どもや移住してきた方が参加しやすい環境を整えることで、地域のつながりを強化し、次世代を担う人材育成に努めます。
- (拡充) 地域の連帯感を強め、豊かな人間関係を育むため、地域・家庭・学校が連携のもと「あいさつ運動」に取り組み、明るく元気なまちづくりを進めます。
- (拡充) 誰でも気軽に集えて学習やスポーツができるコミュニティ施設を開設するため、地域の空き家や公共施設の空き室などの有効活用に取り組みます。
- (新規) 地域のイベント活動の案内をウェブサイトやSNS等での発信を検討し、更なる参加を促します。

II 安全・安心

- 【方針1】防災減災の意識を高め災害に強い地域づくりを推進します。
- (拡充) 災害時に自力での避難が困難な高齢者・障がい者などの避難行動要支援者に対し、多様な世代が関わり地域で支え合う仕組みづくりに取り組みます。
- (拡充) 講習会等の開催や防災訓練、自主防災組織内の避難所運営訓練を実際の災害を想定して実施することにより、防災減災意識の高揚を図ります。

- 【方針2】防犯対策や交通安全運動に取り組み安全・安心なまちづくりを推進します。

- (拡充) 子どもたちや高齢者等を交通事故や犯罪から守る活動を継承するとともに、高齢者を詐欺被害から守るための声掛け運動などに取り組みます。

III 地域資源の利活用

- 【方針1】豊かな自然環境を活用し、魅力あるまちづくりを推進します。
- (拡充) 大森城山公園「さくらまつり」、高倉山、「ひらた花咲まつり」、陽林寺「紫陽花まつり」、新田茂田川「ホタルの里」など、四季を通じた誘客に取り組みます。
- (拡充) 幹線道路沿道や地域の花壇等を利用した花いっぱい運動を地域の子どもたちにも参加を促して取り組み、子どもたちの環境保全への興味・関心の向上を図ります。



【陽林寺の紫陽花】

- 【方針2】歴史資源を活用し、魅力あるまちづくりを推進します。

- (拡充) 西久保遺跡を含め地域の数々の名所旧跡・文化財について、歴史資源の紹介と活用に努めます。
- (拡充) 地区内の神社仏閣などの歴史資源の周知を図るため、体験型イベントの発信を検討するとともに、引き続き、歴史資源を結ぶ散策路の環境整備等に取り組みます。
- (拡充) 文化財や史跡等を紹介できる人材（語り部）の発掘・育成に取り組みます。

IV 福祉・健康

- 【方針1】高齢者や障がい者など要配慮者を支えるまちづくりを推進します。
- (拡充) 高齢者や障がい者、高齢者のみの世帯を地域全体で支えることのできるネットワークづくり・強化に取り組みます。
- (拡充) 公共交通空白地帯をはじめとした買い物難民の交通移動手段のあり方について、先行事例を学ぶなど、研究を進めます。

- 【方針2】安心して子育てのできるまちづくりを推進します。

- (新規) 「福島市子どものえがお条例」の周知・啓発に努め、子ども食堂の拡充や育成会・育成部の担い手増に地域を挙げて取り組みます。

- 【方針3】子どもから高齢者まで地域で健康に暮らせるまちづくりを推進します。

- (拡充) 減塩や健脚、フレイル予防など、地域住民の健康増進に取り組みます。
- (拡充) 地域でスポーツ活動を行っているグループ同士の交流の場を設け、スポーツ人口の増加に努めます。

V 環境・衛生

- 【方針1】住みよい生活環境の保全を推進します。

- (拡充) 家庭ごみ、特にキエ一口等の活用による生ごみの減量化や、ごみの分別・再利用に向けた周知・啓発に取り組みます。
- (拡充) ポイ捨てのない美しいまちづくり推進モデル事業の環境美化活動に取り組むとともに、ごみ減量強化月間をつくり、ごみ拾い運動を地区ごとに開催します。
- (継続) 地域において不法投棄防止の活動を行い、環境保全に取り組みます。

VI 地域産業・地域振興

- 【方針1】地域産業の継承と遊休農地の活用を推進します。

- (拡充) 地区内の事業所や高校などの協力により、子どもたちに農業やモノづくりの魅力を伝える活動に取り組み、地域産業の人材育成に努めます。
- (拡充) 農業従事移住者の受け入れと、遊休農地等の多面的利活用に取り組みます。

- 【方針2】国道13号福島西道路南伸とあわせて活力のあるまちづくりを推進します。

- (拡充) 信夫地区未来会議等で検討した地域振興策の具現化に努めます。
- (新規) II期整備区間で唯一の平面交差周辺部について、地域振興に繋がる柔軟な土地利用が図られるよう取り組みます。